

宮城県考古学会 中近世部会 令和4年度 第2回研究会開催のお知らせ

宮城県考古学会中近世部会事務局

宮城県考古学会 中近世部会では、来る令和4年11月19日（土）、宮城県柴田町しばたの郷土館を会場として「船岡城と城内出土の中世陶磁器類について」というテーマで令和4年度第2回研究会を開催いたします。

船岡城跡（四保城）は、伊達騒動（寛文事件）でお家断絶となった原田甲斐宗輔の居所として著名ですが、現在では、山頂に立つ平和観音像を中心に、桜の名所として整備された城跡公園が一般の方々に解放され広く親しまれています。

城跡の歴史に関しては江戸時代以前の資料がほとんど無く、原田甲斐の父、原田宗資が、慶長20年（1615年）に大坂夏の陣の軍功により柴田郡船岡城主となる以前の中世城館としての歴史は謎に包まれたままでした。

ところが近年、城内各地で鎌倉時代まで遡るとみられる中世陶磁器類が相次いで採取され、これまで皆無と思われていた中世城館としての船岡城跡の遺構・遺物が城内に残されている可能性が高まってきた。

これらの新出資料は、近年、相次いだ大雨・台風の被害により崩壊した土砂崩れ現場などから偶然発見されたものですが、中世の船岡城解明のための糸口として大変貴重な資料になると思われます。

今回の研究会では、船岡城内を詳しく踏査されている柴田町教育委員会文化財担当の畠山さんに、船岡城内をご案内していただき資料採取現場を確認させていただき、その後、郷土館に戻り、採取した陶磁器類の概要について解説していただく予定です。

会場：しばたの郷土館多目的ホール（図書館2階）
(宮城県柴田町船岡西1丁目6-26)

日程： 令和4年11月19日（土）

13:00	開会
13:30	船岡城跡 現地見学
15:00	休憩
15:15	出土遺物 解説・観察
16:30	閉会

詳細につきましてはFACEBOOKの
「宮城県考古学会中近世部会」ページまで

宮城県考古学会中近世部会
FACEBOOKページQRコード

